

会議名	第12回新城地域協議会		公開
日時	令和8年3月5日(木) 午後7時00分～午後8時30分	場所	市役所本庁舎 4階会議室
出席者	(委員) 西尾泰昭、権田康之、坂部岳、杉浦史佳、佐本達俊、今泉澄夫、丸山哲也、藤田雅久、中川享子、今泉克英、村松敬史、小栗健次、鈴木雅晴、白柳明美、安形元成、今泉光俊、福本克司、今泉栄、畠山恵美子		
	(事務局) 市民自治推進課：早川参事 新城自治振興事務所：今泉所長、藤本主事		
欠席者	矢賀美紀代、坂巻克彦、大瀧章義	傍聴者	1名
配布資料	次第、 地域活動交付金(令和8年度事業)振り返りグループワーク用資料、 令和8年度への引継ぎ事項について(案)		

議題・議事・発言等(要点記録)

<p>1 開会 委員22名中19名の出席により会議成立の報告、及び会議録署名委員の指名(丸山委員)</p> <p>2 報告 地域活動交付金(令和8年度事業)採択結果について(以下、報告内容) 地域活動交付金(令和8年度事業)申請団体のうち、採点結果により事業採択となったが、予算枠の関係から満額内定とならなかった新城市東新町立物花火保存会について、事務局が団体代表に事業実施意向確認をしたところ、自己負担を工面して事業実施する旨の回答があった。</p> <p>3 議事 (1)地域活動交付金事業(令和8年度事業)振り返り グループワーク 以下、①～④の項目についてグループで意見交換をした。</p> <p>①交付上限額を50万円から100万円にしたことの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上限を増やしたことで少ない団体数で使い切ってしまう、下位団体まで交付されない。常連団体の申請が重なると、新規団体は出しにくくなってしまう。 ・子どもを対象とする事業について、交付上限額が増えたから事業を増やしたのではなく、子どもたちが喜ぶから事業が増えたと聞いている。 ・上限100万円にしたことで必要不可欠な備品が買えるようになったが、申請団体が固定化してしまう恐れもある。 ・伝統文化継承にとって恩恵がある。ただ、キリがないためそれについては別枠を設けたらどうかと意見もあったが、基準を考えるのが難しいとも意見があった。 <p>②交付率100%についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付率を下げたら申請額が少ない団体も申請しやすいのではないか。 ・交付率を下げれば「自分たちも努力する」姿がもっと出てくるのでは。 ・100%で良いという意見と、7～9割で良いという意見、両方あった。 ・交付率を下げることは考えにくい。申請された内容に対して適している部分だけOK

にするという意見もあったが、さじ加減や決め方が非常に難しいので、実現はできないかなと思う。

③備品の申請額が申請総額の中で割合アップしてきていることについて

- ・備品が多くなっても規制できない。備品の中身の問題であるので、審査基準として重要視した方がいい。
- ・いい面でもあるし、そうでない面でもある。

④公益性の範囲について

- ・交付上限が上がっても、公益性が上がった訳ではない。
- ・申請者を単独区ではダメとするのではなく、内容に公益性があれば認めて良い。

(その他意見)

- ・役員が毎年交代する団体は、同じことをやっていくという継続性はあるが、発展性は欠ける。
- ・こども園保護者会の活動は、こども園の介入もないと地域との関連など発展に繋がりにくい。
- ・こども園保護者会の申請には、予算枠を確保してあげたい。
- ・小さな申請額、小さな活動の事業もなるべく吸い上げていきたい。
- ・活動団体のすそ野を広げるためには、審査基準が今のままでいいのか。(採点の中身、点数だけの採点)

(2) 令和8年度への引継ぎ事項について

以下の内容を引継ぎ事項とすることに賛成多数で議決した。

- ・地域活動交付金審査採点時の意見、理由の取り扱い整理
- ・地域活動交付金(令和9年度事業)募集、審査に当たり(1)グループワークの意見を参考に用いること。
- ・設立を目指す防災連絡会から意見を聴取し、団体運営を応援すること。各区自主防災会で必要な防災備品は市防災対策課補助を利用すること。
- ・地域自治区内の通学路危険個所について、令和6年度にカラー舗装施工箇所の優先順位を決めていること。
- ・継続事業は優先的に地域計画との整合性を確認し、進捗管理、終期の設定を検討すること。
- ・地域計画推進体制設立に向け、地域協議会としても地域活動団体立ち上げサポート、地域拠点の利用方法、ルールを検討すること。

4 その他

令和8年度新城地域協議会新委員説明会、第1回新城地域協議会の日程確認をした。

5 閉会